

# 特産品の栽培による耕作放棄地の解消

やまだかまくら

## 富山市山田鎌倉地区

### 状況

地区概要：農地面積7.8ha、うち耕作放棄地0.28ha

放棄の理由：離農・高齢化による労働力不足等

荒廃の程度：灌木・雑草が繁茂し、重機等を用いて行う再生作業が必要

### 取組概要

対象面積：0.2ha(水田)

実施期間：平成22年10月～平成23年3月

取組のきっかけ：地域振興と耕作放棄防止として年配者でも管理しやすい啓翁桜の栽培を平成9年設立の花木生産組合にて取り組まれており、栽培規模の拡大にあたり、耕作放棄地を再生することとなった。

調整経緯：富山市担い手育成総合支援協議会が、地権者と調整を図った。

取組主体：花木生産組合(鎌倉営農組合)

作業内容：耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用し、灌木伐採、除根、草刈りなどの再生作業を行った。

### 今後の予定

解消農地については、平成23年度に土壌改良した後、地域の特産品として好評を得ている啓翁桜を栽培する予定。



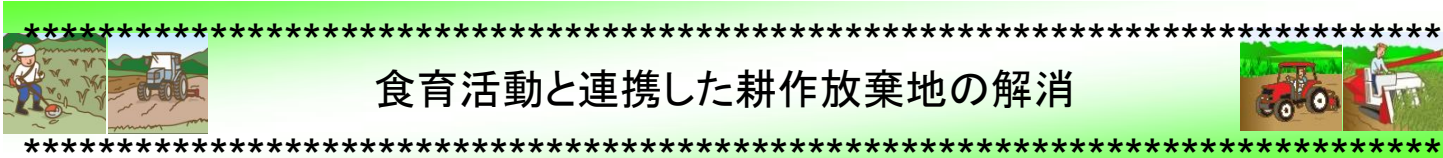
再生作業前



作業実施中



再生作業後



## 食育活動と連携した耕作放棄地の解消

### やなみまき 小矢部市 屋波牧地区

#### 状況

地区概要：農地面積約3.1ha うち耕作放棄地約0.6ha

放棄の理由：地形条件が悪く農業機械が入れないことと、担い手不足のため

荒廃の程度：雑草が繁茂しているため、人力、農業用機械、重機による再生作業が必要。

#### 取組概要

対象面積：0.3ha(水田)

実施期間：平成22年5月～11月

取組のきっかけ：宮島峡赤かぶ生産組合では赤カブの生産拡大を図るため、農業機械が進出しやすい農道そばの耕作放棄地を中心に、これまで解消に努めてきた。今回、小矢部市学校給食センターと宮島峡赤かぶ生産組合が、学校給食の食材としてカブを使用する地産地消の取組みをきっかけに、進入路の無かった耕作放棄地についても、本対策を活用して整備することとした。

取組主体：宮島峡赤かぶ生産組合

作業内容：学校給食の食材として利用するカブを栽培するため、生産者である宮島峡赤かぶ生産組合と給食を利用している小学生とその父兄とが、共同で耕作放棄地を再生し、体験を通じて給食が出来るまでを学んだ。

#### 今後の予定

再生された農地では、継続して学校給食用のカブを作付けするとともに、新たな作物の栽培や体験農園等も行っていく予定としている。



共同での草刈り作業



再生作業及び進入路整備



共同での赤カブ収穫作業

こうず  
**南砺市楮地区**

**状 況**

地 区 概 要 : 農地面積12ha、うち耕作放棄地 0.4ha

放棄の理由 : 離農・高齢化による労働力不足等

荒廃の程度 : 雑草・灌木が繁茂し、人力・農業機械による再生作業が必要

**取組概要**

対 象 面 積 : 約0.25ha(水田)

実 施 期 間 : 平成22年10月～平成23年6月

取組のきっかけ : 本地域は世界遺産である五箇山の玄関口であり、地区内の棚田は特徴的な石積みで形成されているものの、高齢化等により耕作放棄が増えつつあった。そこで、上平地区で唯一残された石積みの棚田を保全し活用していくため、企業等と連携し耕作放棄地を解消した。

調 整 経 緯 : NPO法人棚田ネットワークや地域耕作放棄地対策協議会の呼びかけによりアストラゼネカ富山分室の協力を頂いたことにより、地区代表者が地権者と調整を図った。

取 組 主 体 : 楮集落、アストラゼネカ(株)富山分室

作 業 内 容 : 県単美しい農村景観整備事業の補助を受け、再生作業を行った。

**今後の予定**

景観作物、地域特産作物の植付けを行い、棚田の活用を行う。



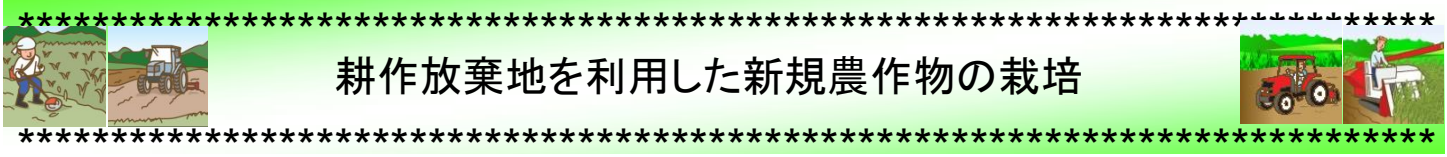
再生作業前



アストラゼネカ(株)との  
共同による草刈り



ヒマワリ植栽



# 耕作放棄地を利用した新規農作物の栽培

## ささがわ 朝日町 笹川地区

### 状況

地区概要：農地面積18ha、うち耕作放棄地 2ha  
 放棄の理由：離農・高齢化による労働力不足等  
 荒廃の程度：雑草・灌木が繁茂し、人力及び土木機械による再生作業が必要

### 取組概要

対象面積：約0.41ha(水田)  
 実施期間：平成22年9月～平成23年6月  
 取組のきっかけ：本地域では、集落の活性化を目的に笹川左岸の広場を交流拠点として整備中である。今回、広場に隣接する耕作放棄地を復元して、啓翁桜や実バラのほかマルイモなどの栽培に取組み、特産化を目指すこととした。  
 調整経緯：地域耕作放棄地対策協議会が、笹川集落を通じ調整を図った。  
 取組主体：笹川自治振興会 啓翁桜・実バラ研究グループ  
 作業内容：県単美しい農村景観整備事業の補助を受け、再生作業後、作付を行った。

### 今後の予定

今後も継続的に農地を利用し、収穫した生産物は、設置を予定している野菜直売所で販売し、集落の活性化を目指す。



再生作業前

再生作業実施

実バラの栽培